

インターンシップ・PBL 報告会開催報告

日時: 2015年2月13日(金) 13:30~19:00

場所: 東京大学工学部2号館1階212講義室

参加者数: 学内35名(受講学生含む)、学外23名

主催: 実践型研究リーダー養成事業「イノベーションリーダー養成演習」(PCIL)

工学系研究科専攻間横断型教育プログラム「機械システム・イノベーション」(GMSI)

博士課程教育リーディングプログラム「社会構想マネジメントを先導する

グローバルリーダー養成プログラム」(GSDM)

開催趣旨:

大学院教育において、高い専門性は持ちつつ、複合領域で柔軟な応用力を持たせることが求められ、大学のみでは教育が難しい課題解決型の能力を身につけるには、産学連携教育が有効と考えている。ここでは、インターンシップやPBL(Project Based Learning)の事例を紹介し、実際に受講している学生や担当する企業の方とともに、産学連携教育について考える。

スケジュール:

13:30-13:40 開会挨拶 丸山 茂夫(東京大学)

13:40-14:10 産学連携による大学人材育成について 宮本 岩男(経済産業省)



14:10-14:40 工学系研究科における産学連携教育 横野 泰之(東京大学)



14:40-15:10

インターンシップ報告会

平岡 幹啓 (航空, 派遣先:東芝)

高本 聡 (機械, 派遣先:物質・材料研究機構)

飯田剛之 (化シス, 派遣先:BASF)



15:10-16:10

PBL 報告会(発表 15 分, 質疑 5 分)

Team1: 健康・安心社会を支える社会インフラの新事業創生
(テーマ提案: 日立製作所)



Team2: ビッグデータ技術に基づく新たな廃棄物処理ビジネスモデルの創出



(テーマ提案: 荏原環境プラント)
 Team3: 効果的な行動変容を促す新たな健康ビジネスモデルの検討
 (テーマ提案: 三菱総合研究所)

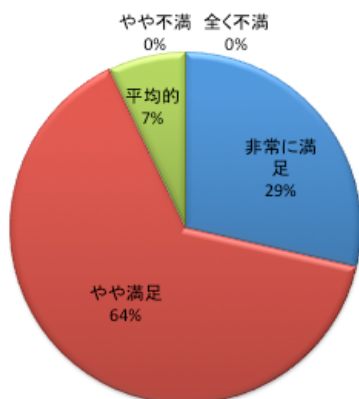


16:10-16:30 休憩
 16:30-17:50 パネルディスカッション
 出口 典孝(東芝), 松岡 慶(荏原環境プラント), 朝日 透(早稲田大学),
 鈴木 寛(東京大学), 丸山 茂夫(東京大学),
 コーディネータ: 横野 泰之(東京大学) 記事は別途掲示
 17:50-18:00 閉会挨拶 金子成彦(東京大学)
 18:00-19:00 懇談会 PBL表彰式 光石 衛(東京大学)
 優秀賞 健康・安心社会を支える社会インフラの新事業創生 チーム

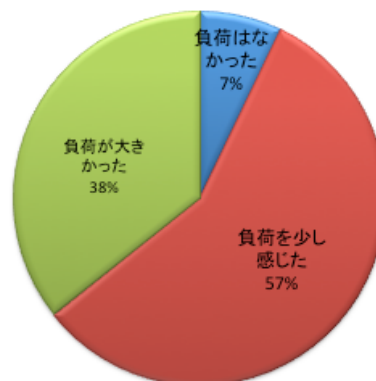


PBL 受講学生アンケート(受講生 14 名、回答数 14)

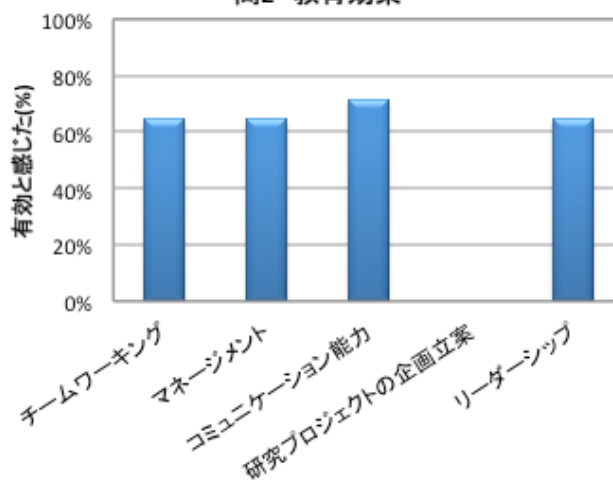
問1. 工学コンピテンシー I (Project Based Learning)の満足度について



問3 受講する際の負荷について



問2 教育効果



困った点

- 修士 2 年であるが、修士論文執筆と最終発表が近かったため、終盤は少し負担に感じた、また英語力が必要とされるため、その点も負担であった
- 修士 2 年だったので、終盤一か月は全くチームの役に立てず迷惑をかけた
- 修論生などに対する不可に関しての事前告知が不十分だと感じた。その結果、当初の想定よりも不可が偏った
- 問題設定は難しい

意見

- PBL 参加であったが、もう少し企業と連携を取れば良かった。産学連携ということであるが、連携をサポートする制度が充実していないと感じた
- この授業を通じて何を学んで欲しいのか、最終プレゼンテーションで何を求められているのかが不明瞭(特に後者)でその議論に時間が割かれた。この点に関して、最初の授業で学んでほしいことを紙 1 枚にでもまとめていただくと、もう少しスムーズに進むのではと考えている。最終プレゼンにおいて評価項目が不明瞭である点は、改善していただきたい。とくに優秀賞を設けるのであれば、そのグループの何が優れており、自分たちのグループに何が不足していたのかを明らかにしてもらいたい。そうでなければ、最終的に何が評価され、どこを改善すべきだったのかがわからず、授業を通じて学べるのが半減してしまい、せっかくの授業であるのに非常にもったいないと感じている。